

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

15.06.2004

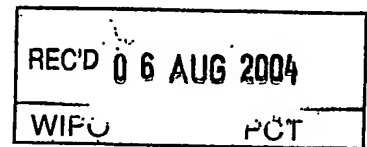
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年 5月19日

出願番号
Application Number: 特願2003-140446
[ST. 10/C]: [JP 2003-140446]

出願人
Applicant(s): 岡崎 勉

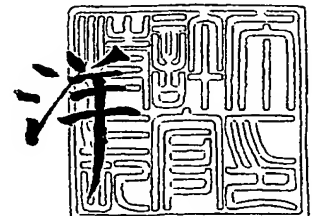


PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 7月22日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川



【書類名】 特許願

【整理番号】 OK01001

【提出日】 平成15年 5月19日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B26B 21/12

【発明者】

 【住所又は居所】 山口県宇部市常藤町 4 番 3 6 号

 【氏名】 岡崎 勉

【特許出願人】

 【住所又は居所】 山口県宇部市常藤町 4 番 3 6 号

 【氏名又は名称】 岡崎 勉

【代理人】

 【識別番号】 100111132

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 井上 浩

 【電話番号】 083-901-2233

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 151818

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 理美容具

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 把持部と、刃を備えて前記把持部に連結されるレザー部とからなる理美容具において、前記レザー部は前記把持部に連結するレザー保持部と、一の辺に切欠きを備えた少なくとも 2 の第 1 の突出片を形成しかつ前記一の辺と他の辺との間に前記刃を保持し前記レザー保持部に交換可能に取設される刃保持部と、切欠きを備えた少なくとも 2 の第 2 の突出片を形成する保護部とを有し、前記第 1 の突出片と前記第 2 の突出片によって形成される隙間から前記刃を露出させることを特徴とする理美容具。

【請求項 2】 前記刃保持部又は保護部は爪部を具備してなることを特徴とする請求項 1 記載の理美容具。

【請求項 3】 前記レザー保持部と前記保護部が一体に形成されてなることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の理美容具。

【請求項 4】 前記刃の一部が切取り可能に具備されることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 に記載の理美容具。

【請求項 5】 前記把持部の前記レザー部とは反対側の端部に連結される保持部を有し、この保持部は替え刃あるいは櫛を交換可能に取設することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 に記載の理美容具。

【請求項 6】 前記把持部は指を挿入する指輪を形成してなることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 5 のいずれか 1 に記載の理美容具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、毛髪を梳く時に使用する理美容具に関する。

【0002】

【従来の技術】

一般に、近年ではカラーリングやカット方法によって軽い質感や柔らかい質感をだすヘアスタイルや毛先に動きのあるヘアスタイルが好まれている。そし

て、このようなヘアースタイルはシザーやレザーを用いて量の多い髪を梳く技法を用いることで創りだされている。

【0003】しかしながら、レザーを用いて髪を梳く場合には力の加減や髪に対するレザーの角度によって梳かれる髪の量が変わってしまうため、熟練した技術が必要とされるという課題があった。また、髪をカットする場合には櫛で髪を梳かしてカットした髪を除去しながらカットするのが一般的であり、カット作業において櫛とレザーを交互に持ち替えなければならず作業が行いにくいという課題があった。

【0004】このような課題に対処するため、いくつかの発明及び考案が開示されている。

例えば、特許文献1には、「理美容用レザーホルダー」という名称で、髪を梳く量を調節することのできるレザーに関する発明が開示されている。

【0005】以下、図5を参照しながら、特許文献1に開示された技術について説明する。図5(a)は理美容用レザーホルダーを用いたカット時の毛髪梳き量の状態図であり、図5(b)は(a)のカットされた毛髪の状態図である。

特許文献1に開示された理美容用レザーホルダーは、図5(a)に示すように把持部の一端に設けられた本体13が髪をカットするレザー14と、これを保持するホルダー部15とから構成されている。また、ホルダー部15の一辺には複数の突出片16が形成されており、これの各先端には溝17が設けられている。このため、このような構造の理美容用レザーホルダーを用いて髪を梳く場合には、溝17に蓄えられた毛髪18はカットされずレザー14と接触している毛髪18のみがカットされ、(b)に示すように毛髪18を部分的にカットすることができる。

【0006】なお、図5には示していないが突出片16の幅を変えることによって梳く髪の量を調節することも可能である。

【0007】また、特許文献2には、「ヘアカット用レザー」という名称で、毛髪を一定間隔ごとに一定の幅で確実に削ぎ落とすことのできるヘアカット用レザーに関する発明が開示されている。

【0008】以下、特許文献2に開示された技術について説明する。

特許文献2に開示されたヘアカット用レザーは、特許文献1の実施例を示す図4(a)と同形状のヘアカット用レザーにおいてレザー14(特許文献2では刃と呼ばれている。)が本体13(特許文献2では櫛部と呼ばれている。)に密着するように取付けられた構造となっている。刃と櫛部の間に隙間が生じる構造では切断しなくてもよい毛髪までもが刃に当たって切断されていたが、このような構造とすることで切断したい毛髪のみが刃に当たるため、切断したい部分の毛髪だけを確実に切断することができ、これにより所望のヘアースタイルを創ることができる。

【0009】また、特許文献3には、「髪具」という名称で、櫛とレザーが一体となった髪具に関する発明が開示されている。

【0010】以下、特許文献3に開示された技術について説明する。

特許文献3に開示された髪具は、櫛部と、髪の手をカットするレザー部と、これらを連結するヒンジ部とから構成されており、ヒンジ部には指を挿入することのできる環状の指輪が設けられている。そのため、髪をカットする場合には環状の指輪に指を挿入して髪具を自由に回転させることで櫛部とレザー部を交互に使用することができる。これにより、櫛とレザーを持ち帰る作業が不要となるため、カット作業の効率を向上させることができる。また、櫛部はヒンジ部に対して着脱可能に設けられているので、様々な種類の櫛部をヒンジ部に取付けて使用することも可能である。

【0011】

【特許文献1】

特開平10-249075号公報

【特許文献2】

特開2000-61175号公報

【特許文献3】

特開2001-300159号公報

【0012】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述の従来の技術においては、特許文献1に開示された発明に

においては、ホルダー部に溝を具備した複数の突出片を設けることで髪の毛を部分的にカットでき、しかも、突出片の幅を変えることで梳く髪の毛の量を調節することができるものの、梳く毛髪の量の調整は幅の異なる突出片を有する同形状の理美容用レザーホルダーを用意しなければならず、これらを持ち替える作業を必要とするという課題があった。また、ホルダー部に保持された刃は毛髪をカットするのに使用する部分とホルダー部に隠れて使用されない部分とがあり、この使用されない部分を残したまま刃を交換するのは不経済であり理容サービスのコストを向上させる要因となるという課題があった。

【0013】特許文献2に開示された発明においては、櫛部と刃を密着させた構造とすることで切断したい部分の毛髪のみを確実に切断することができるものの、特許文献1と同様に1つのヘアカット用レザーで梳く髪の毛の量を調整可能には構成されておらず、櫛部に隠れた使用されない刃の部分を利用できるようなものでもなくサービスコストを向上させる要因となるという課題があった。

【0014】特許文献3に開示された発明においては、櫛部とレザー部をヒンジ部を介して一体に設けることでカット作業を向上させることができるものの、特許文献1や2と同様の理由からサービスコストを向上させる要因を含んでいるという課題があった。

【0015】本発明はかかる従来の事情に対処してなされたものであり、ヘアカット時において梳く髪の毛の量を容易に調節することができ、しかも刃を効率的に利用可能な構造として効率的にヘアカットが可能で理容サービスコストも削減することのできる理美容具を提供することを目的とする。

【0016】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、請求項1記載の発明である理美容具は、把持部と、刃を備えて把持部に連結されるレザー部とからなる理美容具において、レザー部は把持部に連結するレザー保持部と、一の辺に切欠きを備えた少なくとも2の第1の突出片を形成しかつ一の辺と他の辺との間に刃を保持しレザー保持部に交換可能に取設される刃保持部と、切欠きを備えた少なくとも2の第2の突出片を形成する保護部とを有し、第1の突出片と第2の突出片によって形成される隙間か

ら刃を露出させるものである。

上記構成の理美容具においては、第1の突出片と第2の突出片で刃を挟持する構造とすることで第1の突出片あるいは第2の突出片の一の辺に設けられた切欠きで切断したくない毛髪を保持し、第1の突出片と第2の突出片によって形成される隙間から露出される刃で残りの毛髪を切断するという作用を有する。

【0017】また、請求項2記載の発明である理美容具は、請求項1記載の理美容具において刃保持部又は保護部が爪部を具備してなるものである。

上記構成の理美容具においては、刃保持部又は保護部に爪部を設けることでレーザー保持部に対して刃保持部又は保護部をスライド可能とし、第1の突出片と第2の突出片によって形成される隙間の幅を調整可能とするという作用を有する。

【0018】請求項3記載の発明である理美容具は、請求項1又は請求項2に記載の理美容具においてレーザー保持部と保護部が一体に形成されているものである。

上記構成の理美容具においては、部品数を削減するという作用を有する。

【0019】また、請求項4記載の発明である理美容具は、請求項1乃至請求項3のいずれか1に記載の理美容具において刃の一部が切取り可能に具備されるものである。

上記構成の理美容具においては、刃保持部又は保護部をスライドさせて第1の突出片と第2の突出片の隙間から露出している刃の使用部分を端部側の突出片内に收容し、突出片内に隠れていた未使用の刃を露出させ、スライドによって刃保持部又は保護部の端部から露出した刃を切除するという作用を有する。

【0020】請求項5記載の発明である理美容具は、請求項1乃至請求項4のいずれか1に記載の理美容具において把持部のレーザー部とは反対側の端部に連結される保持部を有し、この保持部は替え刃あるいは櫛を交換可能に取設するものである。

上記構成の理美容具においては、一つの理美容具でレーザー部と他のレーザーあるいは櫛とを併用しつつ用途によって適宜交換するという作用を有する。

【0021】また、請求項6記載の発明である理美容具は、請求項1乃至請求項5のいずれか1に記載の理美容具において把持部は指を挿入する指輪を形成してなるものである。

上記構成の理美容具においては、理美容具が指輪に挿入した指を軸に回転し、ヘアカット時にレザー保持部と保持部の位置を交換するという作用を有するとともに、指輪に指を挿入することで理美容具が手中に固定されるという作用を有する。

【0022】

【発明の実施の形態】

以下に、本発明に係る理美容具の実施の形態を図1乃至図4に基づき説明する。

【0023】(a)は本発明の実施の形態に係る理美容具の概念図であり、(b)は図1(a)中符号Aで示される方向への矢視図であり、(c)は図1(a)中符号Bで示される方向への矢視図であり、(d)は図1(b)中のホルダー1とカバー2が一体となった状態の概念図である。

図1(a)において、理美容具は柄6と、この両端に設けられるホルダー1、8から構成され、ホルダー1、8にはそれぞれ毛髪を梳くためのレザー部、櫛9が取外し可能に設けられている。また、柄6中央部には技術者がカット作業時に指を挿入するリング7が設けられており、技術者はリング7に挿入した指を軸に理美容具を自在に回転できる構造となっている。

ホルダー1に取付けられ今回の発明の特徴でもあるレザー部は刃3を内包した刃保持板4と、刃3を挟むようにして刃保持板4の反対側に設けられたカバー2とから構成されており、刃保持板4及びカバー2の縁辺にはそれぞれ切欠き2b、4bを具備した複数の突出片2a、4aが設けられている。さらに、刃保持板4には凸状の爪5が具備されており、これに指を掛止して刃3を内包した刃保持板4をホルダー1内でスライドさせることができる構造となっている。このため、刃保持板4をスライドさせることで突出片2aと突出片4aとの間隔を変える、すなわち、突出片2aと突出片4aとの間から露出する刃3の幅を調節することができるようになっている。詳しい内容については図3を参照しながら説明する。

【0024】また、図1(b)に示すように、刃保持板4はホルダー1内に内包された構造となっており、爪5を用いてホルダー1内で図1(b)の手前側にス

ライドさせてホルダー 1 から取外しができる構造となっている。ホルダー 8 においても図 1 (c) に示すように櫛 9 がホルダー 8 内に内包された構造となっており、図 1 (c) の手前側に櫛 9 をスライドさせて取り外すことができるため、他の形状の櫛やレザーの替え刃と取替えが可能な構造となっている。このため、図 1 (a) においては、ホルダー 8 には櫛 9 が装着されているが、櫛ではなくホルダー 1 とは別にレザーの替え刃を装着することも可能である。ホルダー 1 においても、同様の取替えを行うことができる。したがって、1 つの理美容具において様々な形状の櫛やレザーを取替えて使用することができる。加えて、リング 7 を用いて理美容具を回転させることによりホルダー 1, 8 に装着されたレザーと櫛、あるいは他の形状の櫛やレザーを交互に使用することができるため、複数種類の櫛やレザーを何度も持ち替える手間を減らしカット作業の効率を向上させることができる。また、リング 7 に指を挿入して理美容具を把持することで柄 6 を手中に固定しておくこともでき、作業中に理美容具が手中から容易に落下するのを防止することができる。これにより、さらにカット作業効率を上げることができるとともに、理美容具の落下による作業者の怪我や理美容具自体の破損を防ぐことができる。

【0025】図 1 (d) は図 1 (a) 中のカバー 2 とホルダー 1 が一体となった状態の理美容具を示す図であり、符号 1 a はこれに対応するホルダーである。図 1 (a) に示す理美容具ではカバー 2 とホルダー 1 が別々であったのでカバー 2 がホルダー 1 に対して取外しが可能であり、ホルダー 8 と同様にホルダー 1 にも櫛 9 や他の形状のレザーの替え刃を挿入することができるという利点があったが、図 1 (d) に示すようにホルダー 1 とカバー 2 とを一体とすることによっては部品数を少なくして構造を簡略化できると同時に製造コストを削減できるという効果がある。

【0026】図 2 (a) は図 1 (a) 中の刃 3、刃保持板 4 及びホルダー 1 を示す斜視図であり、図 2 (b) は図 2 (a) 中の爪 5 を他の形状にした例を示す概念図である。図 2 において、図 1 に記載されたものと同一部分については同一符号を付し、その構成についての説明は省略する。

図 2 (a) に示すように爪 5 の両サイドは凸状になっている。このため、カッ

ト作業中でも理美容具を手を持った状態でこの爪5の凸部分に理美容具を持った手の指を掛止してホルダー1内で刃保持板4をスライドさせて突出片2aと突出片4aとで形成される隙間の幅、つまり、刃3の露出幅を変えることができる。

【0027】図2(b)では図2(a)中の爪5のように凸部分を設ける代わりに、爪5aに滑り止め5bを設けたものである。滑り止め5bとしては細溝を形成してもよいし、逆に細い凸状の山部を設けてもよい。このような形状とすることによっても、指1本で刃保持板4のスライド操作を行うことができ、片手のみで櫛とレザーの使い分け作業、カット作業及び露出する刃3幅の調節を行うことができ、作業効率を向上させることができる。

なお、爪5の設置位置は、柄6は反対側の端部に限定するものではないが、ヘアカットに支障のない位置に設けることが必要である。また、図1や図2においては刃3が露出している部分に設置されているが、もちろん突出片4aの部分に設けても構わない。ただ、髪を梳く方向に抵抗が少ないようにしておくといよい。

【0028】ここで、図3を用いて毛髪の梳き量の調整方法について説明する。

図3(a)は本発明の実施の形態に係る理美容具のカバー2と刃保持板4が重なっている状態を示す概念図であり、図3(b)は(a)でカットされた毛髪の状態図であり、図3(c)は本発明の実施の形態に係る理美容具のカバー2と刃保持板4が重なっていない状態を示す概念図であり、図3(d)は(c)でカットされた毛髪の状態図である。図3において、図1及び図2に記載されたものと同一部分については同一符号を付し、その構成についての説明は省略する。

【0029】本発明の理美容具を用いて毛髪を梳いた場合には一部の毛髪が切欠き2b、4bに蓄えられて切断されずに残り、切欠き2b、4bに蓄えられていない残りの毛髪のみが突出片2aと突出片4aの間から露出している刃3によってカットされる構造となっている。

したがって、図3(a)では、刃保持板4の突出片4aとカバー2の突出片2aとが重なっており、刃3は突出片4a、4aの間隙3aだけ露出しているので、図3(b)に示すように突出片4aに蓄えられた毛髪はカットされずに残り、刃3と接触する部分、つまり、間隙3aと同様の幅の毛髪のみが部分的にカット

される。符号 10 a はカットされた毛髪の状態である。

【0030】一方、図 3 (c) は、刃保持板 4 の突出片 4 a とカバー 2 の突出片 2 a とが少しずれている状態であり、これは爪 5 に指を掛止してホルダー 1 内で刃保持板 4 をスライドさせることによってこの状態にすることができる。また、露出している刃 3 は図 3 (a) に示す間隙 3 a よりも狭い間隙 3 b の部分のみであり、図 3 (c) に示すように、突出片 2 a と突出片 4 a のいずれかにかかる部分、すなわち、間隙 3 c に蓄えられた毛髪はカットされずに残り、間隙 3 b の部分のみの毛髪がカットされる。これにより、図 3 (b) の毛髪 10 a よりも梳き量の少ない毛髪 10 b を得ることができる。

特許文献 1 に示すような理美容用レザーホルダーでは毛髪の状態を変えるには突出片の幅の異なるホルダー部を用意する必要があったが、本発明の理美容具では、ヘアカット時にホルダー 1 内で刃保持板 4 をスライドさせることによって露出する刃 3 の幅を自在に変えることができ、これにより所望の梳き量で毛髪をカットすることができる。

【0031】図 4 (a) は本発明の実施の形態に係る理美容具の刃を示す概念図であり、図 4 (b) はホルダーに保持された刃を示す概念図であり、図 4 (c) はホルダーに保持された刃をスライドさせた状態の概念図であり、図 4 (d) は刃の一部を切り離した時の状態を示す概念図である。図 4 において、図 1 乃至図 3 に記載されたものと同一部分については同一符号を付し、その構成についての説明は省略する。

図 4 (a) に示すように刃 3 の一部には切り込み 11 が設けられている。そのため、図 4 (b) に示す状態で繰り返し刃 3 を使用して露出した刃 3 の部分の切れ味が鈍くなった場合には、まず爪 5 に指等を掛止して刃保持板 4 をスライドさせ、ホルダー 1 から刃保持板 4 を取外す。そして、刃保持板 4 を矢印 B の方向へとスライドさせて刃 3 の古くなった部分が突出片 4 a の後部に收容されるようにし、さらに、切り込み 11 が刃保持板 4 の端部にくるようにする。これにより、図 4 (b) で突出片 4 a の後部に收容されていた未使用の刃 3 が隣接する突出片 4 a の間に露出される。図 4 (c) はその状態を示している。そして、図 4 (d) に示すように、切り込み 11 部分から刃片 12、すなわち、古くなった刃 3 の

一部を切り離すことで図 4 (b) とほぼ同一の構造となるので、残りの刃保持板 4 及び刃 3 をホルダー 1 に再び挿入して使用することが可能となる。

したがって、特許文献 1 及び特許文献 2 に示すようなヘアーレザーでは、突出片等の隙間から露出している刃が古くなってしまうと刃全体を交換しなければならず替え刃にコストがかかっていたが、本実施の形態に係る理美容具では刃保持板 4 をスライドさせることで、突出片 4 a の後部に収容されていた刃 3 の未使用部分を隣接する突出片 4 a 間に露出させて使用し、交換の際には刃 3 の未使用部分がないように最大限に使用することができる。これにより、理容サービスのコストも大幅に削減することができる。

【0 0 3 2】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の請求項 1 に記載の理美容具においては、第 1 の突出片と第 2 の突出片との隙間から露出する刃の幅と同様の毛髪量を部分的に切断することができる。

【0 0 3 3】 また、本発明の請求項 2 に記載の理美容具においては、請求項 1 の発明に加えて、第 1 の突出片と第 2 の突出片によって形成される隙間の幅、すなわち、露出する刃の幅を調整可能とすることで所望の量の毛髪を梳くことができるとともに、刃の露出幅の異なる理美容具を複数用意して作業時にこれらを持ち替える手間を省くことができる。

【0 0 3 4】 特に、本発明の請求項 3 に記載の理美容具においては、レザー保持部と保護部を一体に設けることで部品数を減らしてコストを削減することができる。

【0 0 3 5】 本発明の請求項 4 に記載の理美容具においては、刃の一部を切取り可能に設けることで刃を有効に使用することができ、コストを削減することができる。

【0 0 3 6】 本発明の請求項 5 に記載の理美容具においては、レザー部と保持部を把持部を介して連結させることで毛髪カット時にレザー及び櫛等を持ち替える手間を省くことができ、作業効率を向上させることができる。

【0 0 3 7】 最後に、本発明の請求項 6 に記載の理美容具においては、請求項 5

の効果に加えて把持部に指を挿入する指輪を形成することでこれに指を挿入して理美容具を自在に回転させながら毛髪のカット作業を行うことができる。これにより、櫛とレザーの持ち替え作業、毛髪のカット作業及び露出する刃の幅調整作業を片手操作を行うことができ、これによっても作業効率をより向上させることができる。

さらに、指輪に指を挿入して理美容具を把持することで、カット作業中に理美容具が手中から落下するのを防止し、作業者の怪我や理美容具の破損を防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

(a) は本発明の実施の形態に係る理美容具の概念図であり、(b) は図 1 (a) 中符号 A で示される方向への矢視図であり、(c) は図 1 (a) 中符号 B で示される方向への矢視図であり、(d) は図 1 (b) 中のホルダー 1 とカバー 2 が一体となった状態の概念図である。

【図 2】

(a) は図 1 (a) 中の刃 3、刃保持板 4 及びホルダー 1 を示す斜視図であり、(b) は図 2 (a) 中の爪 5 を他の形状にした例を示す概念図である。

【図 3】

(a) は本発明の実施の形態に係る理美容具のカバー 2 と刃保持板 4 が重なっている状態を示す概念図であり、(b) は (a) でカットされた毛髪の状態図であり、(c) は本発明の実施の形態に係る理美容具のカバー 2 と刃保持板 4 が重なっていない状態を示す概念図であり、(d) は (c) でカットされた毛髪の状態図である。

【図 4】

(a) は本発明の実施の形態に係る理美容具の刃を示す概念図であり、(b) はホルダーに保持された刃を示す概念図であり、(c) はホルダーに保持された刃をスライドさせた状態の概念図であり、(d) は刃の一部を切り離した時の状態を示す概念図である。

【図 5】

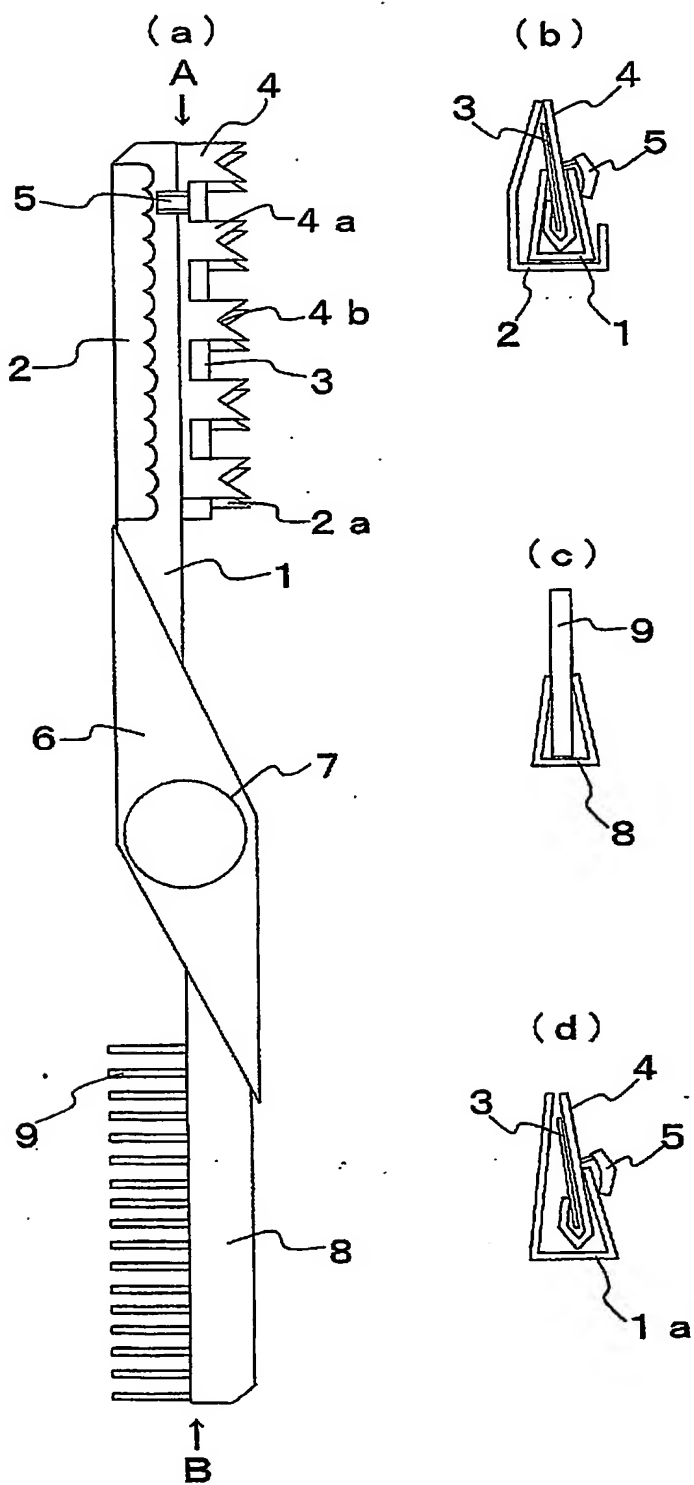
(a) は従来技術に係る理美容用レーザーホルダーを用いたカット時の毛髪梳き量の状態図であり、(b) は (a) のカットされた毛髪の状態図である。

【符号の説明】

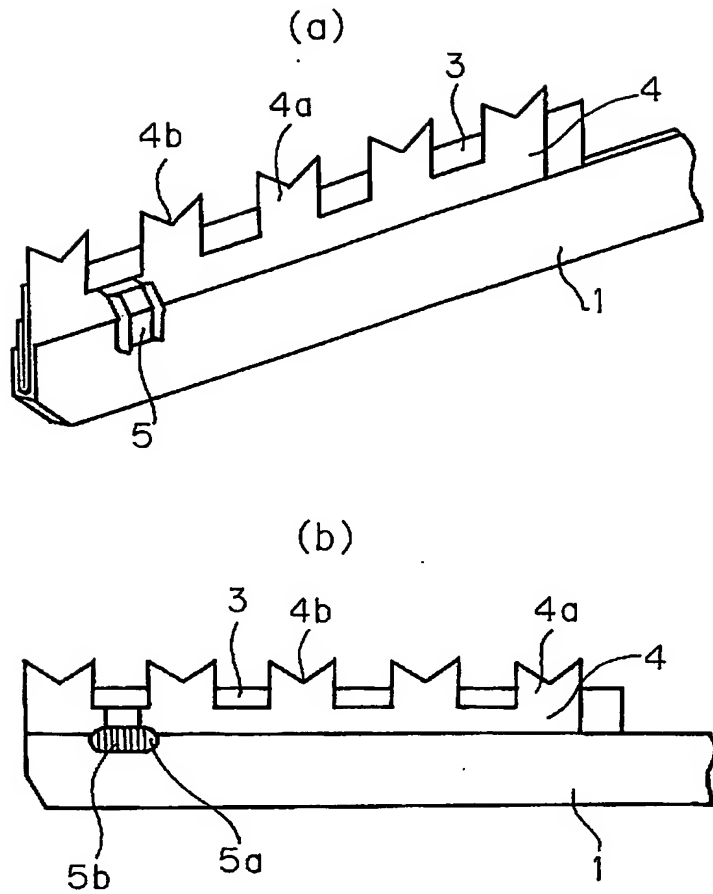
1, 1 a …ホルダー 2 …カバー 2 a …突出片 2 b …切欠き 3 …刃 3 a, 3 b, 3 c …間隙 4 …刃保持板 4 a …突出片 4 b …切欠き 5, 5 a …爪 5 b …滑り止め 6 …柄 7 …リング 8 …ホルダー 9 …櫛 10 a, 10 b …毛髪 11 …切り込み 12 …刃片 13 …本体 14 …レーザー 15 …ホルダー部 16 …突出片 17 …溝 18 …毛髪

【書類名】 図面

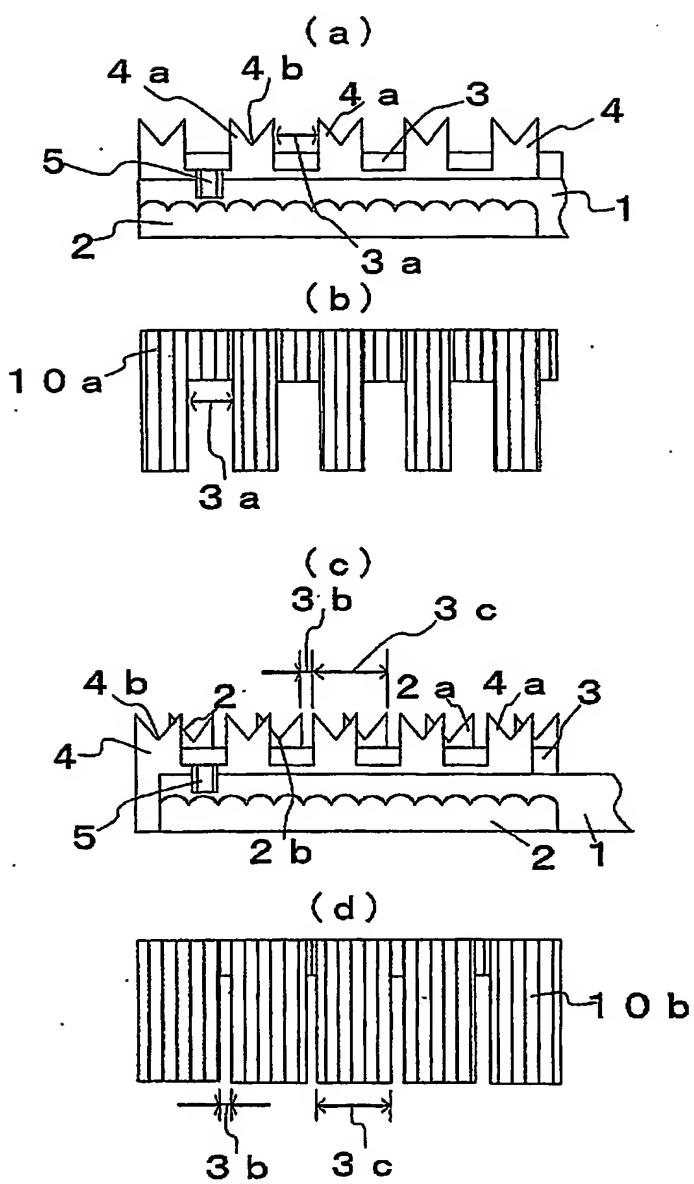
【図 1】



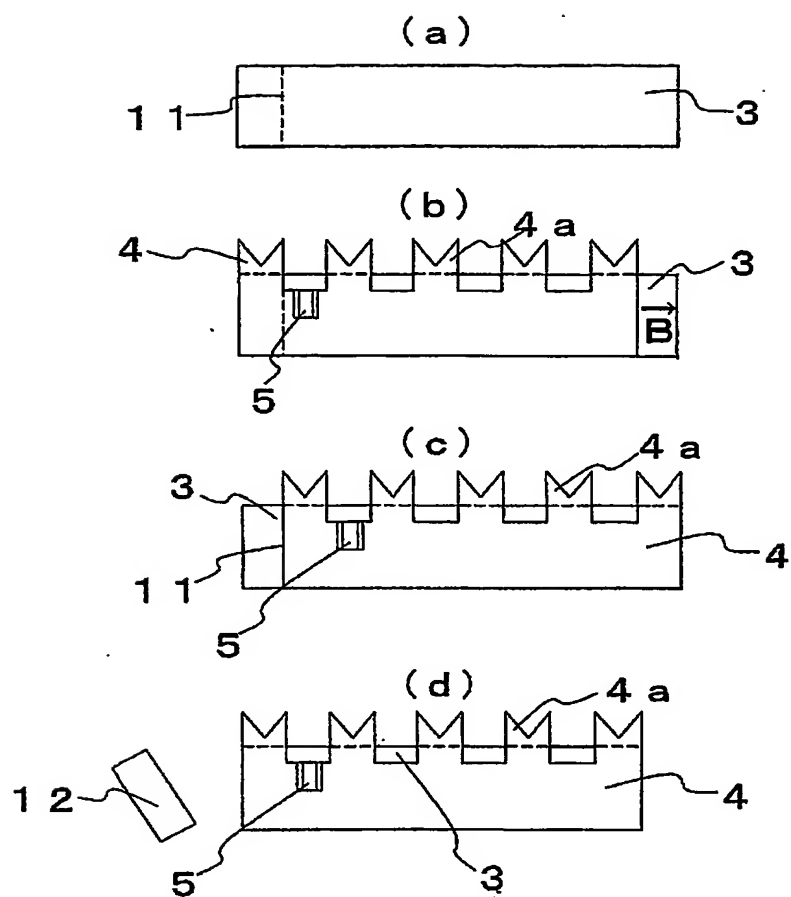
【図 2】



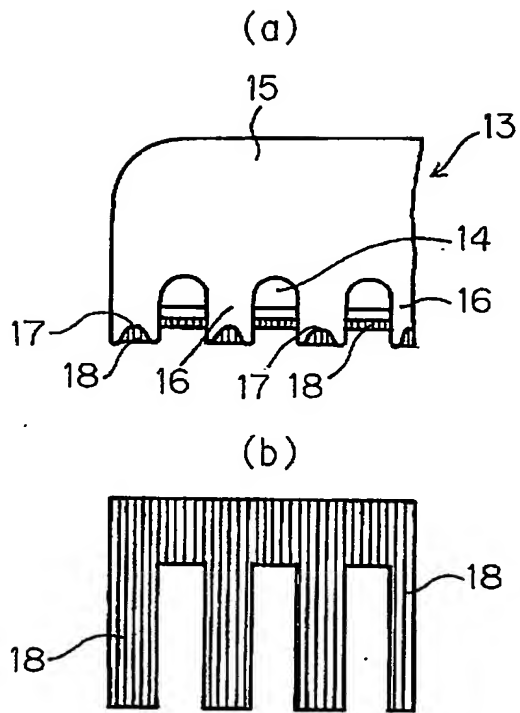
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ヘアーカット時において梳く髪のを容易に調節することができ、刃を効率的に利用可能な構造として理容サービスコストを削減することのできる理美容具を提供することである。

【解決手段】 把持部 6 と、刃 3 を備えて把持部 6 に連結されるレザー部 1, 2, 3, 4 とからなる理美容具において、レザー部 1, 2, 3, 4 は把持部 6 に連結するレザー保持部 1 と、一の辺に切欠き 4 b を備えた少なくとも 2 の第 1 の突出片 4 a を形成しかつ一の辺と他の辺との間に刃 3 を保持しレザー保持部 1 に交換可能に取設される刃保持部 4 と、切欠き 2 b を備えた少なくとも 2 の第 2 の突出片 2 a を形成する保護部 2 とを有し、第 1 の突出片 4 a と第 2 の突出片 2 a によって形成される隙間から刃 3 を露出させるものである。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 1 4 0 4 4 6

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[5 0 3 1 8 1 3 9 2]

1. 変更年月日

2 0 0 3 年 5 月 1 9 日

[変更理由]

新規登録

住 所

山口県宇部市常藤町 4 番 3 6 号

氏 名

岡崎 勉